

手術室におけるバクテリアフィルタ付加温加湿フィルタHYGROBACの評価

昨年よりDARバクテリアフィルタ付加温加湿フィルタHYGROBACを全身麻酔の全症例に導入した。従来より加温加湿フィルタは全症例に使用してきたが、最近注目を集めている院内感染に対する対策としても理に適ったものであると考えたからである。この導入により手術室には以下のような利点があった。

- 1) 感染症を持つ患者においては、少なくとも呼吸器を介しての他への汚染の拡大を防止することができ、一般の患者においては不測の感染の危険から保護されることになる。
- 2) 麻酔回路の交換を麻酔器1台につき1日1回としたことで、麻酔回路の準備数が症例数に左右されることがなくなった。
- 3) 麻酔回路として本来ディスポーザブルの製品を用いているが、この洗浄、乾燥による劣化や破損が少なくなった。
- 4) 麻酔器や呼気ガスモニター、換気量計の汚染が防止されることから、麻酔器や呼気ガスモニターのメンテナンス、特に感染症患者への使用後の管理が楽になった。

院内感染については現在社会的にも注目を集めており、手術室における患者の管理も常に患者を汚染する危険性を考慮したものでなければならない。幸いにして麻酔器を介した感染の報告は目にしたことはないと考えている。このフィルタの導入により、当院では症例数に左右されずに麻酔回路の在庫を管理することが可能になった。また麻酔器1台につき1日1回の回路交換としたため、複数の手術を行う場合にはその交換の手間が省け、手術室の看護婦には好評であった。更に、従来多少ともためらいのあった呼吸器感染症の患者に呼気ガスモニターを安心して使用できるようになった。

このフィルタの加温加湿の評価については添付の

資料しか持たないが、当院で採用しているハイグロバック-SではTV 500ml、2時間で加温30.6mg/l加温30.9℃で従前に使用していた湿熱交換器より良いようである。呼吸抵抗も30l/minで1.0 cmH₂Oと大きな問題にはならない。ただしバクテリア除去効率、ビールス除去効率はハイグロバック-Sでは99.99%と同社の同種製品であるハイグロバックより劣るので感染性の高い呼吸器感染症が明らかな場合にはこちらを用いる方がよりと考えられる。

実際に使用した印象では、加温加湿に関しては以前に使用していたものと優劣の差はないと感じられるが、重量、死腔量に関しては以前に使用していた湿熱交換器の方が軽量かつ小型で良かったと言う麻酔医の意見が多かった。かかくに関して決して安価とは言えないが、患者の気道の保護と麻酔器やモニターの汚染の防止、麻酔回路の洗浄、乾燥の手間や消耗を考えれば見合うものなのかもしれない。

富山県立中央病院
麻酔科
樋口 明子

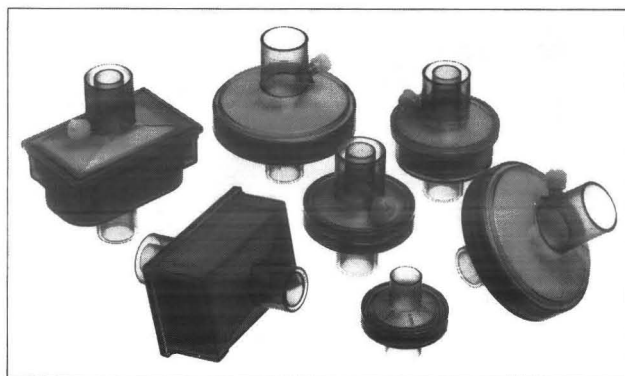
人工呼吸器・麻酔・患者回路システムのトータルサプライ

DAR
ダール

【世界初のバクテリアフィルタ機能を持つ加温加湿フィルタ】

このフィルタひとつで、長期人工呼吸および麻酔中の吸入ガスの加温加湿を十分に行くと同時に、バクテリアを完全に除去します。

毒性のない材質の使用、リークのないハウジングやフィルタメンブレンにより安全性の高い製品です。



●ダールのラインナップ●

加温加湿フィルタほか、患者回路用チューブ、気管内チューブ、コネクタ類を揃えております。

株式会社 **アイカ**
AIKA Medical Corp.

松戸本社 〒271 千葉県松戸市上本郷88 / TEL.0473(61)3600代 / FAX0473(61)3642



東京営業所 ●03(3813)4781(代) / 札幌営業所 ●011(757)3722(代) / 仙台営業所 ●022(275)4250(代) / 名古屋営業所 ●052(721)2271(代) / 大阪営業所 ●06(303)6555(代) / 広島営業所 ●082(239)0901(代) / 福岡営業所 ●092(473)8707(代)